

令和2年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人足利市みどりと文化・スポーツ財団	
施 設 名	足利市民会館	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	29,028	(千円)
	公 演 事 業	17,837 (千円)
	人 材 養 成 事 業	5,969 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	5,222 (千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	芸術・文化による現代版「足利学校」創造プロジェクト～アートでつなぐ、学びのこころ～専属プロフェッショナル芸術団体「足利ミュージカル」2020足利創生活動	令和2年12月6日	演目：ごんぎつね、脚本・演出：小嶋希恵 出演：足利ミュージカル団員、当銀大輔、和泉紗江、遠山裕介 他	目標値	840
		足利市民会館 大ホール		実績値	420 ※
2	芸術・文化による現代版「足利学校」創造プロジェクト～アートでつなぐ、学びのこころ～専属プロフェッショナル芸術団体「足利カンマーオーケスター」2020足利創生活動	令和2年11月15日	出演：指揮・中橋健太郎左衛門、管弦楽・足利カンマーオーケスター	目標値	150
		足利市民プラザ 文化ホール ※		実績値	132
3	芸術・文化による現代版「足利学校」創造プロジェクト～アートでつなぐ、学びのこころ～専属プロフェッショナル芸術団体「足利オペラ・リリカ」2020足利創生活動	令和2年9月13日 ※	出演：大隅智佳子、足利オペラ・リリカ ※定期公演「ドン・ジョバンニ」は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止	目標値	703
		足利市民会館 大ホール ※		実績値	75 ※
4	芸術・文化による現代版「足利学校」創造プロジェクト～アートでつなぐ、学びのこころ～準フランチャイズ芸術団体連携プロジェクト「N響プロジェクト」2020	令和3年2月20日	出演：指揮・下野竜也声 ※、ピアノ（ソリスト）・清水和音 ※、管弦楽・NHK交響楽団	目標値	831
		足利市民会館 大ホール		実績値	685 ※

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	
5	佐渡裕/反田恭平 with ジャパン・ナショナル・オーケストラ特別 編成	令和3年3月7日※	出演：指揮・佐渡裕、ソリスト（ピアノ）・ 反田恭平※、演奏・ジャパン・ナショナル・ オーケストラ特別編成※	目標値	974
		足利市民会館 大ホール		実績値	692 ※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	芸術・文化による現代版 「足利学校」創造プロジェクト～アートでつなぐ、学びのこころ～足利市民会館・附属芸術団体「足利ユースオーケストラ」2020 足利創生活動	令和2年8月1日～ 令和3年3月20日 ※	講師：風岡優、工藤俊幸 ほか	目標値	入場者数：延べ 1,300 参加者数：90
		足利市民会館		実績値	入場者数：368 ※ 参加者数：62 ※
2	芸術・文化による現代版 「足利学校」創造プロジェクト～アートでつなぐ、学びのこころ～ 足利市民会館・専属プロフェッショナル芸術団体「足利ミュージカル」研究科・第9期	令和2年8月15日～ 令和3年2月27日 ※	講師：小嶋希恵、足利ミュージカル団員、鳳樹いち、和泉紗江、三橋奈月、鷹野沙弥香ほか	目標値	入場者数：延べ 300 参加者数：40
		足利市民会館		実績値	入場者数：110 ※ 参加者数：49
3	芸術・文化による現代版 「足利学校」創造プロジェクト～アートでつなぐ、学びのこころ～ 足利市民会館・専属プロフェッショナル芸術団体「足利オペラ・リリカ」研究科・第9期	令和2年9月2日～ 令和3年3月17日 ※	講師：大隅智佳子、小林昭裕、原純、佐藤宏充、清水綾ほか	目標値	入場者数：延べ 200・参加者数：6
		足利市民会館 小ホール		実績値	入場者数：56 ※ 参加者数：5

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	足利地区小中学校芸術教室事業 鑑賞プログラム 小学校音楽教室	令和2年6月3日・4日(中止)※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	目標値	足利市内 小学校 (24校・ 4~6年 生) 児童 約3,300
		足利市民会館 大ホール		実績値	— ※
2	足利地区小中学校芸術教室事業 鑑賞プログラム 中学校音楽教室	令和2年6月1日・2日(中止)※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止	目標値	足利市内 中学校 (13校) 生徒約 1,900
		足利市民会館 大ホール		実績値	— ※
3	足利地区小中学校芸術教室事業 鑑賞プログラム 小学校(低学年)演劇教室	令和2年9月2日・3日・4日(中止)※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止	目標値	足利市内 小学校 (24校・ 1~3年 生) 児童 約3,100
		足利市民会館 大ホール		実績値	— ※
4	足利地区小中学校芸術教室事業 アウトリーチプログラム 小学校出前コンサート(音楽・伝統芸能)	令和2年10月8日~ 令和2年12月17日※	出演: 足利楽友協会、足利カンマーオーケスター、足利オペラ・リリカ、地元伝統芸能継承団体	目標値	足利市内 小学校 (24 校・4~ 6年生) 児童約 2,000
		足利市内小学校		実績値	1,068※

5	足利地区小中学校芸術教室事業 アウトリーチプログラム 小学校演劇ワークショップ	令和2年9月25日～ 令和2年11月20日※	出演：足利ミュージカル団員・準団員	目標値	足利市内 小学校 (9校・ 4～6年 生) 児童 約400
		足利市内小学校		実績値	151 ※
6	芸術・文化による現代版 「足利学校」創造プロジェクト～アートでつなぐ、学びのこころ～ 子ども伝統芸能総合プロジェクト 「地域伝統芸能体験成果発表会」	令和3年1月11日	出演：地元伝統芸能継承団体(あしかが子ども歌舞伎(舞楽)、杵家会足利支所長唄登会・登喜和会)	目標値	入場者 数：400 参加団 体：10団 体(100 人)
		足利市民会館 大ホール		実績値	入場者 数：61 ※ 参加団 体：2団 体(37 人) ※
7	3つの足利市民会館・専 属プロフェッショナル芸 術団体による「出前公演」	令和2年11月29日 令和2年12月13日	出演：足利オペラ・リリカ、足利カン マーオーケスター	目標値	270
		名草公民館 富田公民館		実績値	90 ※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>【「学び」で人が繋がるまち足利】</p> <p>足利市民会館のミッションは、足利市が日本遺産「史跡足利学校」を教育・文化のシンボルに掲げていることから、①市民文化の高揚と熟成、②子どもたちの芸術環境づくりの推進、③福祉への側面的支援、④人材養成・学びの場の創出、⑤文化芸術をとおした地域のにぎわい創出、以上5つを掲げています。当館は文化芸術における生涯学習を達成すべく、「いつでも・誰でも・気軽に参加」できるよう年間をとおして多様な事業を展開しています。事業内容は公演アンケートや参加者からの聞き取りだけでなく、足利市民アンケートなども参照し、地域課題解決の一助となるよう努めています。</p> <p>【コロナ禍における文化芸術のニーズ】</p> <p>令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、事業を中止せざるを得ない状況でした。このような状況のなかで、三密を避けることができること、また、来場者による混雑を回避できる事業として、公民館アウトリーチ公演を実施できました。その結果、「初めて身近で出演者の演奏・歌を聴くことができ感動した」「これからも公民館を活用して欲しい。地域の活性化につながる」などの感想をいただきました。また、子どもを対象とした事業では、「初めてでも楽しめました」「音楽を通して友達をつくって欲しい」などの感想をいただきました。このことから当館の事業は、生演奏による心の癒しや来場者同士の繋がりがだけでなく、人の流れが疎かになっている足利市境地域でのにぎわい創出や子ども同士・親同士の交流の場づくりなどのニーズにも応えることができたと考えられます。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>当館は地域の芸術団体による公演やアウトリーチだけでなく、NHK交響楽団や佐渡裕氏による演奏会・アウトリーチを定期的に行っています。なかでも、佐渡裕氏の市内高等学校バンドクリニックは、学校全体で取り組んでいただきました。また小学校・中学校に対して、当館の公演事業やアウトリーチを学校行事という位置づけで開催しており、これまで約50年間、学校と連携をとりながら地域の子どもの文化芸術に触れる機会の創出を継続しています。</p> <p>足利市の文化課や生涯学習課とも連携し、当館で開催する公演だけでなく、当館への来場が困難な市境の地区の公民館でのアウトリーチコンサートを実施しました。これにより、コロナ禍における「人と会う機会の創出」や「孤独の解消」の役割を果たすことができました。</p> <p>地域の商業施設・観光施設と連携して、当館のロビーや楽屋などのケータリングを名産品で飾り、来場者や出演者に足利市の魅力をPRしました。その結果、「あしかがフラワーパーク（市内観光施設）にも行きました」などの感想が寄せられ、文化芸術をとおしたシティセールスができたといえます。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

○公演事業（目標：アンケートによる事業満足度 80%の達成）

当館は過去の入場者数やアンケート結果をもとに目標を設定しています。新型コロナウイルス感染症の影響により、県および市の方針にのっとり入場定員を半数制限して実施したため、当初の目標値を全ての事業で達成することができませんでした。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により下記 3 つの変更がありました。

- ①来場者を足利市民に制限したことによる実施日程の延期（事業番号 3）
- ②海外からの入国制限および都道府県間の移動自粛要請による出演者の変更（事業番号 2、4、5）
- ③実施会場を換気機能が良く広い会場に変更（事業番号 2 と 3）

コロナ禍のなかで実施した事業に対して、アンケートの満足度は、事業番号 1 は 90.5%、2 は 78.1%、3 は 85.7%、4 は 91.6%、5 は 91.6%と 2、1 つの事業を除いて目標値である満足度 80%を達成できました。事業番号 2 は、「新型コロナウイルス感染症対策が過剰」などの不満の声が 3.1%ありました。この声を受けてコロナ対策、掲示物や人員配置等を見直した結果、以降の事業の満足度に繋がりました。

○人材養成事業（目標：文化芸術を通じた交流の場の創造）

事業番号 1 は、新型コロナウイルス感染症の影響により入団希望者が減少しました。全国公立文化施設協会やクラシック音楽公演運営推進協議会などの資料をもとに、職員・講師・団員の保護者で勉強会を開催し、その結果を子どもたちに伝えることで安心して活動できるよう努めました。その結果、小学校 4 年生～高校 3 年生までの子どもたちが練習成果を発表できる機会を 2 回設けることができました。事業番号 2 は、①参加者を 3 クラスに分けて活動、②リモート活用による活動、③専属芸術団体団員による練習を行うことで、小学校 1 年生から大人まで多くの参加者が交流できました。事業番号 3 は、次年度も継続して受講を希望する参加者が約半数おり、文化芸術を通じた交流の場が継続されています。活動の成果発表は、いずれも新型コロナウイルス感染症の影響により、入場者を参加者の保護者・関係者等に制限し、十分な対策を行った上で行いました。

○普及啓発事業（目標：両毛地域の子どもたちが文化芸術に触れる機会の創造）

事業番号 1～3 は新型コロナウイルス感染症の影響により中止になりました。そのため、市内の全ての児童・生徒に芸術に触れる機会を創るという目標は達成できませんでした。一方事業番号 4 と 5 の小学校アウトリーチは、学校の年間行事の合間を調整して実施することができました。アウトリーチプログラムは、新型コロナウイルス感染症の影響により、普段行っている交流型や体験型のメニューを行うことができない代わりに、交流コーナーを長くとったり、手拍子や体を動かすなどを取り入れた結果、「音楽を身近で感じることができ、とてもいい体験になった」などの感想をいただきました。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

○公演事業

新型コロナウイルス感染症の影響による日程変更や先行きが不透明になったことにより広報計画が成り立たなくなりました。そこで、紙媒体の広報物を市内分に抑え、迅速に変更対応ができるインターネットや SNS を活用しました。その結果、普段は紙媒体の広報物をきっかけに来場する人が多い地域（約 50%）ですが来場者数に大幅な減少はなく、インターネットを見て来場した人が前年に比べて約 8%増加しました。来場者の市内・市外の割合は前年とほぼ変わっていないことから、効率的な広報ができたと考えます。

来場者のうち 7%ほどが公演を楽しむためだけでなく、家から出るきっかけや友人等と一緒に過ごせる機会として来場しており、コロナ禍における文化芸術の役割を地域の人に示すことができたと考えます。

事業費は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止・変更した事業を除けば、当初計画どおりです。

○人材養成事業

新型コロナウイルス感染症の影響により、全ての事業の活動開始時期が春の予定が夏～秋に変更となりました。その間、各種ガイドラインの確認やコロナ対策の講習会、コロナ対策グッズの効果の確認などを行い、参加者が安心して活動出来るよう努めました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響による授業数の変更や夏季休暇の短縮などの子どもを取り巻く環境の変化により参加者数は減少しました。そこで事業番号 1 は練習やコロナ対策の様子がわかる見学会を開催しました。県外（埼玉県上福岡市）からの参加者もあり、足利ユースオーケストラの活動への関心の高さが窺えました。事業番号 2 は、当館の IT 環境が不十分であり、全てのプログラムをリモートで行うことは困難でした（画質や音質が悪い、遅延の発生など）。そこで専属芸術団体が講師役を務め、活動時間を子どもが参加しやすい時間帯に調整するなどプログラムを分けることで対応をしました。その結果、事業費に大幅な変更を加えることなく、参加者全員で成果発表公演を行うことができました（新型コロナウイルス感染症の影響により中止した事業を除く）。

○普及啓発事業

小学校アウトリーチは、当初計画では 6 月頃に開催でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、当初予定の 24 校中 13 校（音楽・伝統芸能）、9 校中 4 校（演劇）が、日程を変更して実施しました。春・夏の学校行事が延期され秋に集中して延期したなか、それでも小学校側からアウトリーチ実施の希望あったことは、約 50 年に亘り小学校と連携してきた実績と、コロナ禍における芸術の必要性を小学校側も感じていたからだと考えられます。また、実施日程の延期と実施回数の変更により、コロナ対策を踏まえたプログラムの準備に十二分な時間を得ることができました。その結果、参加校から「子どもが参加できる場面（楽器や曲の説明や質問コーナー）もあり、とても良かった」などの高い評価をいただきました。

事業費は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した事業を除けば、当初計画どおりです。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

【足利市民会館への評価】

当館は1966年の開館以降、様々な取り組みを行ってきました。その成果は下記のとおりの評価を頂きました。

2008年：NHK交響楽団「有馬賞」受賞

2010年：地域創造大賞（総務大臣賞）受賞

2017年：2016年度文化庁長官表彰（文化芸術創造都市部門）受賞

【NHK交響楽団との連携】

1999年に当館でN響定期公演を行ったことを契機に、準・フランチャイズ契約を結び、2003年から定期公演と関連プログラムを行っています。これまで関連プログラムでは、市内小学校における特別音楽授業や未就学児も鑑賞可能な日本遺産「史跡足利学校」でコンサートを行っています。

つまり、市内教育機関や地域資源と連携することで、あらゆる世代の人に高水準の音楽に触れる機会をつくとともにシティプロモーションを行っています。

【佐渡裕氏との連携】

2011年から定期的に演奏会を開催しており、足利市周辺地域の吹奏楽部や市民団体だけでなく、広く両毛地域の人が期待している演奏会です。またこれまで関連プログラムとして、市内小学校における特別音楽授業や吹奏楽部バンドクリニックを行っています。令和2年度のバンドクリニックは、実施校の校放送部から取材および全国大会出品作品への出演依頼もあり学校全体から歓迎されました。これは今年度が初めてのことであり、佐渡氏の演奏会が足利市の音楽愛好家以外にも望まれていることが窺えます。

当館の事業のなかでは特に上記2つのプログラムが、足利市周辺の地域だけでなく東京などの広域からの来場があり、足利市の取り組みや観光施設などをPRすることができております。

【地域に根差した専属芸術団体】

当館には地域の人による芸術団体「足利カンマーオーケスター」「足利ミュージカル」「足利オペラ・リリカ」があり、各音楽監督・芸術監督の指揮のもと、公演やアウトリーチのほか、市内小学校・中学校の児童・生徒を対象とした芸術鑑賞会や特別音楽授業、部活動に対する指導など、公演・人材養成・普及啓発活動を総合的に行うことができております。

また、足利市近隣地域の子どもたちが参加する「足利ユースオーケストラ」は、元群馬県交響楽団のコンサートマスターの風岡優氏を全体総括、山形県交響楽団や群馬県交響楽団の指揮者を務めた工藤俊幸氏を常任指揮者に迎えて活動をしており、音楽への関心や演奏技術の向上だけでなく、音楽を通じた友達づくりおよび保護者同士の仲間づくりを行っています。

※両毛地域…足利市・佐野市・桐生市・太田市・館林市・みどり市・板倉町・明和町・千代田町・大泉町・邑楽町（栃木県2市・群馬県9市・町）からなる人口約80万人・面積1385km²の地域

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

【公演事業】

NHK 交響楽団と佐渡裕氏による最高峰の演奏会と関連事業（アウトリーチ）を実施するほか、専属芸術団体による「オーケストラ」「ミュージカル」「オペラ」の公演と関連事業も実施しています。これにより、「いつでも」「誰でも」「気軽」に文化芸術に触れることのできる機会を創出しています。

全事業における来場者の足利市内・外の割合はほぼ半々であることから、足利市だけでなく広く地域のニーズに応えているといえます。これらは、小中学校芸術教室で「クラシック」「ミュージカル」「演劇」「オペラ」「伝統芸能」を約 50 年に亘って実施し、小学生・中学生の際鑑賞した子どもが大人になり、当財団の企画選定委員や役員として事業企画に関与した結果だと考えられます。

【人材養成事業】

当館の芸術団体を講師に、「いつでも」「誰でも」参加できるプログラムとして展開しています。この体制により、長期的な養成計画と参加後の展望を参加者に明示することができます（※過去の参加者の子どものなかには、音楽や演劇を学べる進路を選択したり、大人になって足利市に戻って文化芸術活動をしたり、文化施設等に就職した人もいます）。

足利ユースオーケストラは足利カンマーオーケスター音楽監督であり、元群馬県交響楽団のコンサートマスターの風岡優氏を全体総括に、群馬県交響楽団の指揮者を務めた工藤俊幸氏を常任指揮者に迎えて活動をしています。子どもたちは、音楽への関心および演奏技術の向上を目標に活動しているほか、保護者および演奏会の来場者は子どもたちに音楽を通じた「友達づくり」や「足利市への愛着」なども期待しており、活動場所が保護者同士・子ども同士の交流の場にもなっています。

足利ミュージカル研究科は足利ミュージカル芸術監督であり、KEI ミュージカルスクール代表で多くの宝塚音楽学校の合格者を輩出している小嶋希恵氏を講師に迎えて活動しています。例年参加希望者が多く今年度も定員を超えて活動をしました。多くのニーズに応えるため、次年度以降は細分化する方針となり、簡単な舞台・音響関係の操作に取り組む舞台技術コースを新設する予定です。

【普及啓発事業】

主に小学生・中学生を対象に文化芸術の入り口として展開しているプログラムです。当館の芸術団体や地域で活動しているアーティストが、自身の学生時代の思い出等を交えて児童・生徒に接することで、限りあるアウトリーチの時間のなかで、円滑に交流を行うことができました。

子ども伝統芸能総合プロジェクトは、地域で伝統芸能の継承に取り組む子どもたちの成果を披露する機会となっています。これは足利市内では地域伝統芸能の発表機会が少ないことから約 20 年続けており、関連事業として伝統芸能が体験できる講座も併設しています。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの団体が出演予定を取り下げました。しかし、出演団体や入場者が少ないことがかえって、伝統芸能体験講座の参加者が緊張せずに出演する機会となりました。その際、例年出演する団体と一緒に出演することで、参加者同士の交流にもつながりました。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

【人材面について（事業企画と舞台技術の二刀流）】

各職員が事業企画と舞台運営（舞台・照明・音響）の両方を担当しています。これにより公演全体を把握ことができ、かつ、異なる立場で公演のことを考えることができます。この経験を貸館業務の際（市民団体による公演・発表会など）に活かすことができるようになっていきます。

全国の劇場・音楽堂等を対象とした研修（舞台技術研修やアートマネジメント研修など）のほか、各職員が関心のある劇場や公演へ研修・視察ができる体制をとっており、財団全体で他施設との交流・情報収集を奨励しています。

当館は今後 5 年で正規職員数の約 6 割が定年を迎えることから、若年層を積極的に採用する方針です。しかし今年度は、コロナ禍により新規募集を広く行うことが困難であったため、退職職員の再雇用を行い、知識・技術の継承ができる体制をつくっています。

【財務面】

過去 3 ヶ年の事業収入・補助金等は緩やかに減少傾向であり、それに伴い事業支出も抑えるよう努めています。

前年まで増加傾向であった友の会会員数・サポーター数は、新型コロナウイルス感染症の影響により、大幅に減少しました。しかし令和 2 年度の入会者のなかには、新規入会者もいることからコロナ禍における文化芸術への期待が窺えます。

新型コロナウイルス感染症の影響により事業を開催できない状況でしたが、当館のコロナ禍における取り組みを協賛企業に対して説明したところ、「コロナ禍で公演の開催は困難でも、足利ユースオーケストラの子どもたちが一生懸命練習をしていることや、芸術団体による子どもたちを対象としたアウトリーチの実施」などを評価していただき、引き続き支援をいただいております。

【足利市内小中学校との連携】

当館は 足利地区小中学校芸術教室研究会（市内の小学校と中学校の教員で構成）と連携し、音楽・演劇・伝統芸能の鑑賞やワークショップを行っています。これにより、市内の全児童が文化芸術に触れる機会をつくっています。令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症により、公演は実施できませんでした。しかし、アウトリーチを開催することで、児童に文化芸術の入り口を提供する一方で、出演者・劇場職員はコロナ禍における学校・児童の現状を目の当たりにすることで、制限のあるなかでも児童が楽しめるようアウトリーチの内容を工夫しました。その結果、例年より児童に寄り添ったアウトリーチを行うことができました。